

# 和歌山県の地震

第 2 7 卷 8 号  
令和元年 8 月

## 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

## 地震メモ No. 309

南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 9 月 6 日)	・・・・・・・・ 5
------------------------------	------------

- \* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

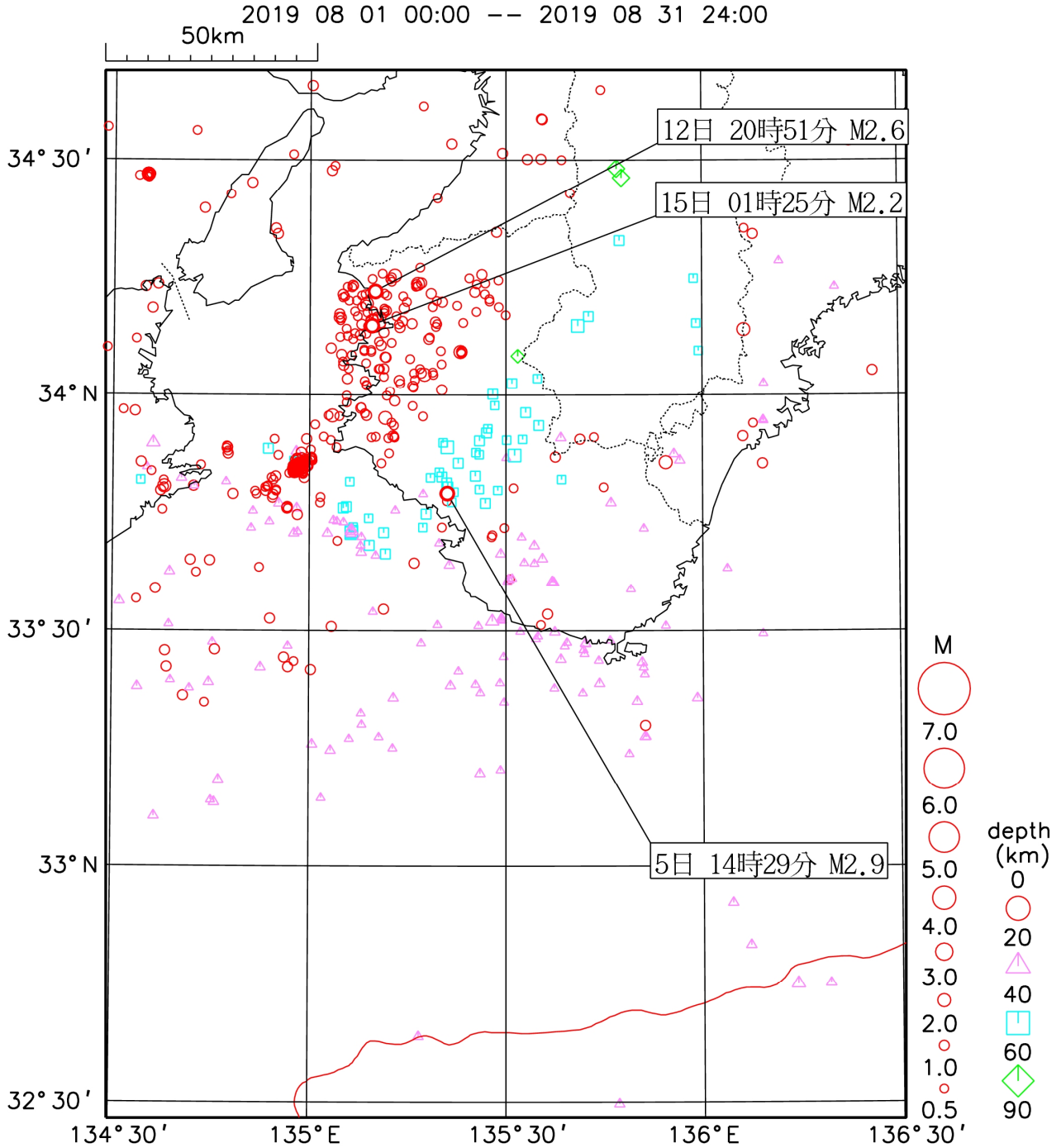
和歌山地方気象台

# 和歌山県の地震活動

2019年8月

和歌山地方気象台

## 震央分布図

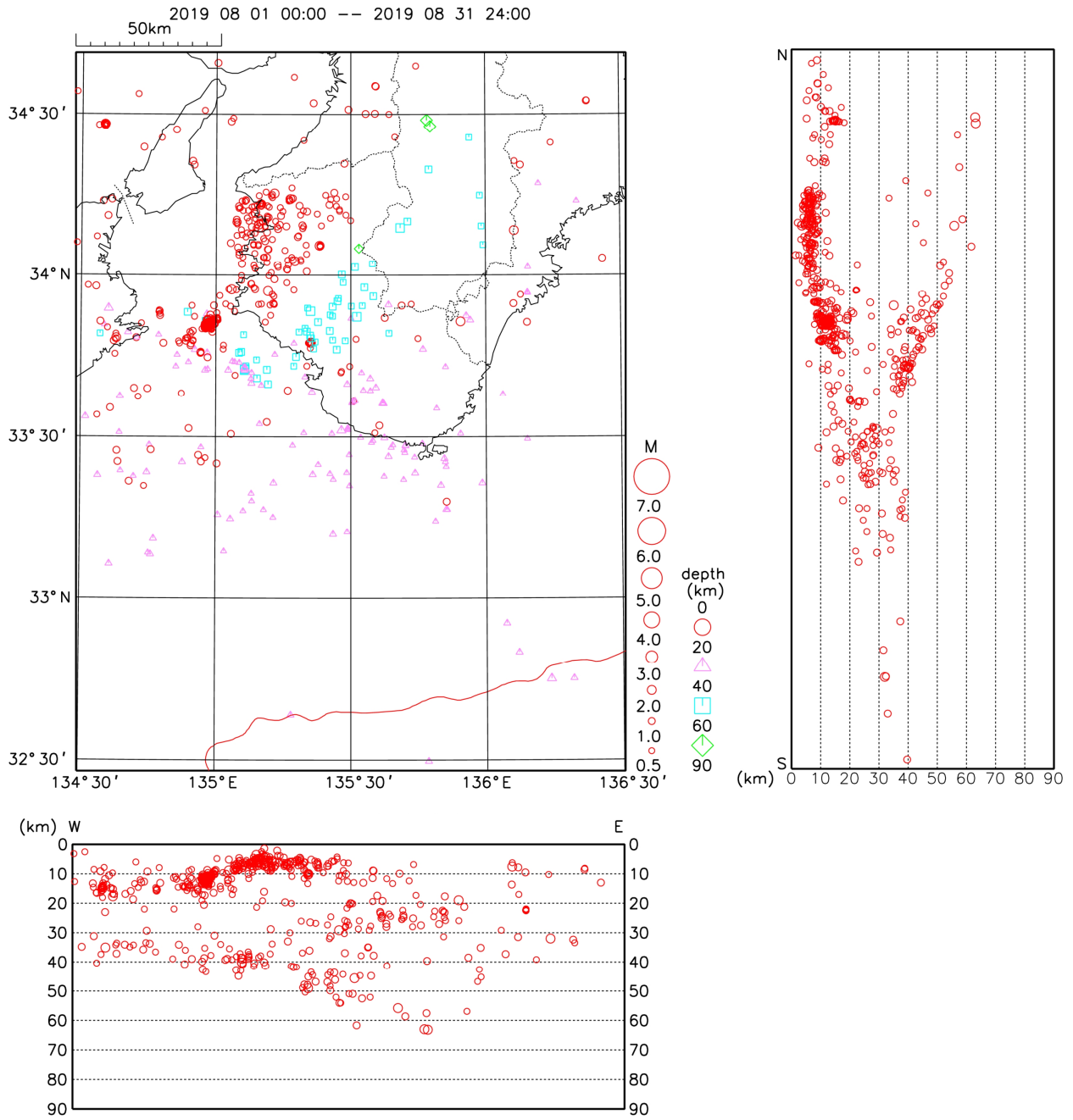


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

# 断面図



## 概況

8月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は31回(前月は24回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、5日14時29分和歌山県北部の地震(M2.9、深さ10km)でした。この地震は地殻内で、定常的に活動がある領域で発生した地震でした。

8月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含め3回(前月4回)でした。

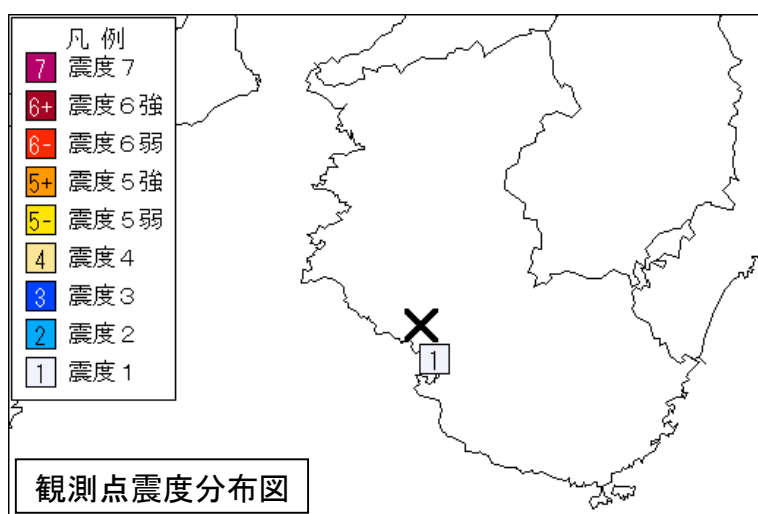
## 和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2019年08月05日14時29分	和歌山県北部	33° 47.4' N	135° 21.0' E	10km	M2.9
和歌山県 震度 1：田辺市中屋敷町*					
2019年08月12日20時51分	和歌山県北部	34° 13.2' N	135° 09.9' E	6km	M2.6
和歌山県 震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*					
2019年08月15日01時25分	和歌山県北部	34° 08.8' N	135° 09.5' E	4km	M2.2
和歌山県 震度 1：海南市下津*, 有田市初島町*					

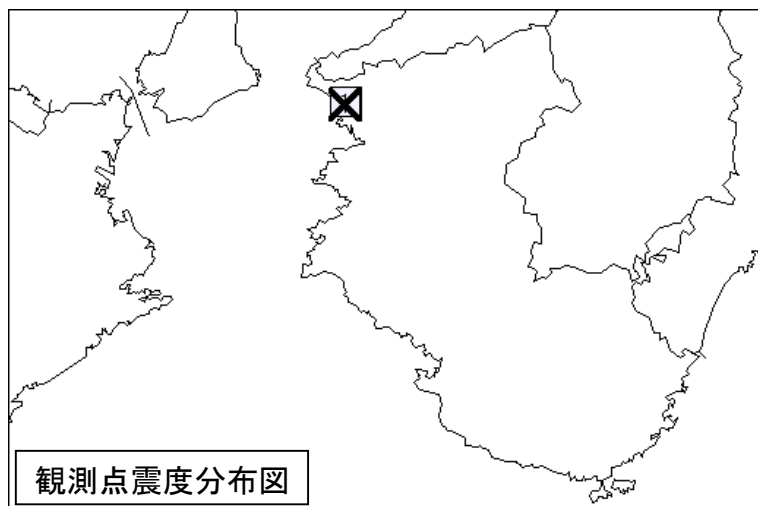
地点名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### 震度分布図（図中の×は震央）

2019年08月05日14時29分 和歌山県北部の地震(M2.9、深さ10km)

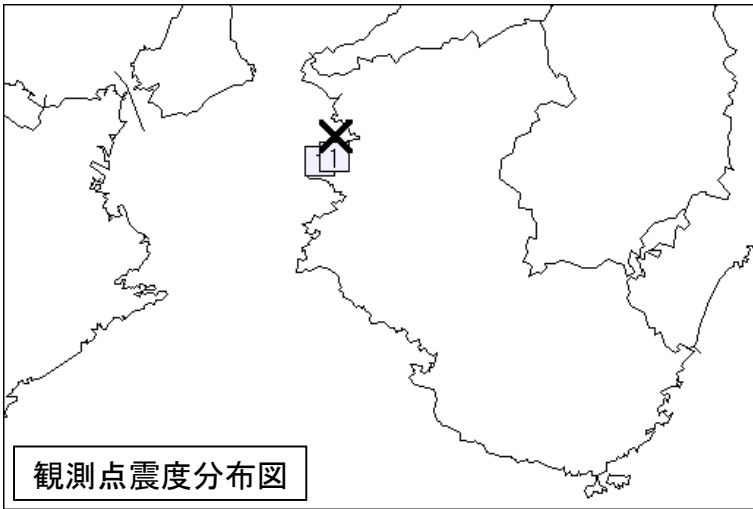


2019年08月12日20時51分 和歌山県北部の地震(M2.6、深さ6km)



震度分布図（図中の×は震央）

2019年08月15日01時25分 和歌山県北部の地震(M2.2、深さ4km)



## 南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年9月6日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国西部から中部：8月1日から8月20日
- (2) 東海：8月1日から8月8日
- (3) 紀伊半島中部：8月3日から8月7日

### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。また、周辺の傾斜データ及びGNSS観測でも、わずかな変化が見られています。

2018年春頃から九州北部のGNSS観測で、また、2018年秋頃から四国西部のGNSS観測及びひずみ観測で観測されている、それまでの傾向とは異なる地殻変動は、2019年6月頃から停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

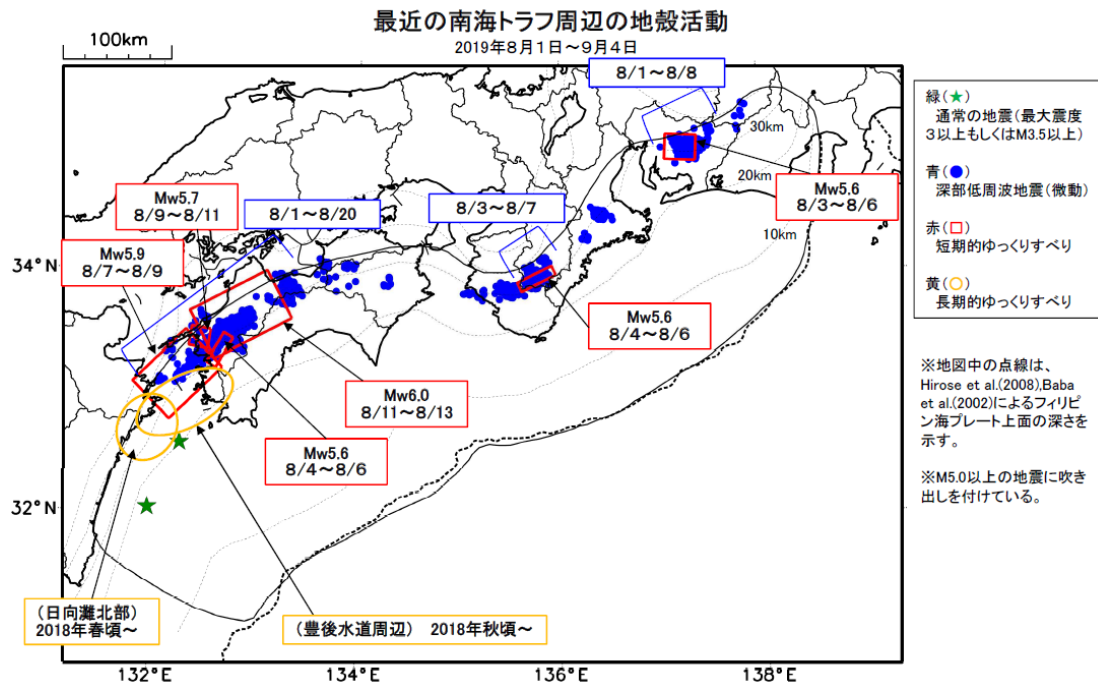


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項等は以下URLの資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください